2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年　11 月 21 日
● 事　業　名　：　別所温泉里山アグロフォレストリー・プロジェクト
● 資金分配団体　：　認定特定非営利活動法人富士山クラブ
● 実 行 団 体　：　一般社団法人信州上田里山文化推進協会

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1)講座の開催	回数　参加者数	アグロフォレストリー講座、地域資源講座、自然エネルギー講座、民俗映像視聴講座	2024 年 3 月	1 年目は 7 月に法人の口座開設や法人設立を達成したが、そのための時間がかかり、事業の本格的開始が 7 月になってしまったが、後半に挽回し当初予定していたとおり講座を開催できた。2 年目前半は計画よりも早く新たに「はじめてのたんぼづくり」「地域資源を使いこなす人材育成講座」を開催することができたため、計画より進んでいると判断した。	1
2)アソシエーションの形成	形成 地元住民ニーズ調査、移住者調査、地元有志、次世代の参加者、市民会員	形成した ヒアリング調査をおこなった	2024 年 3 月	地元の住民ニーズ調査、移住者ニーズ調査を行なった。二地域居住者の連絡先リストも作成することができた。地元の有志、次世代参加者が集まり、地縁団体とは異なるボランタリーな意志による組織であるアソシエーションの形成が進んだ。山の所有者ではないボランタリィな市民による会員制度を現在準備しており、予定どおりすすんでいると判断した。	2

3）フィールド拠点整備	参加者数 土地準備、フィールド整備、拠点設計、DIY 内容（定性）	・参加者 100 名 ・面積 30a ・拠点 DIY は地権者の声を聞き、ゆっくり丁寧に進めている	2024 年 3 月	フィールド整備については、予定していた以上に面積を増やし現在 72a、参加者数も予定通りにすすんでいる。 DIY 拠点作りについては、地元の地権者、地元住民の十分な理解に時間をかける必要があると考え、予定よりも丁寧に時間をかけてすすんでいる。また、地元住民のニーズを踏まえ、荒廃した放置林の伐木を活用して、次世代に DIY を継承するために、伐木の貯木場のための土地を借りて、計画より少し遅れているが、目的達成に向かって進んでいる。	3
4）森林資源の活用事例	定量 森林所有者ニーズ調査、 木の駅視察、 貯木場構築、 薪くらぶ 内容（定性）	森林所有者ヒアリング(9 名) 1 回 借地契約済み	2024 年 3 月	地元の森林所有者、森林財産継承者の悩みや困難を 9 名にヒアリングし、移住者のニーズをふまえて、移住者、市内市民などの力を結集して、地域課題を解決するにはどうするか講座での勉強や議論を重ねた結果、木の駅、薪クラブという方向性が見えてきたため、木の駅視察、貯木場構築を今年度中に行う。若い世代の移住者のニーズとしては、里山を整備し、地域通貨的な手段を使って、成果物としての薪を持ち帰れる「薪くらぶ」活動を開始した。これにより、眠っていた森林資源の活用が予定通り始まったと判断。	2

5)食資源の活用。	参加者数　20 名 地元の素材を使いこなす講座、 講習会、 イベント出展、 組織づくり	関係者名簿 20 名 4 名 1 回 1 つ	2024 年 3 月	1 年目の後半から準備し、今年度、地域の交流施設とっこ館と連携して「地元の素材を使いこなす講座」(10 回)を企画実行した。毎月の旬の地域の産物を使い、現在 6 回が終了し、12 人の参加者と、そのうち 5 名の実践的チームを形成することができ、講座の成果として 3 種類のスイーツ商品を、10 月 30 日のとっこ館祭りに出店することから、予定よりすすんでいると評価した。	1
6)体験活動創出と運営	定量 体験活動創出数 体験ワークショップ実施、	 10 300 名	2024 年 3 月	当初、隔週土曜日に体験ワークショップ(わらび田、マコモ田、エゴマ、竹炭、石場建て、陶芸、原木きのこ、薪づくり、醤油、味噌)、フィールド整備ワークショップを実施する計画であったが、計画を遥かに超えて、毎週土曜日、それに日曜日にもワークショップが開催され、実施回数、参加者数共に計画を超えた。	1
7)起業・商品化	数（定量） 商品づくり・ブランディング講座の開催 テストマーケティング 内容（定性）	 5 回 2 回	2024 年 3 月	これまでのワークショップ等により、マコモ茶、マコモゴザ、マコモクッキー、マコモ和紙(数種類)、エゴマ油、ほだ木、森のスイーツ 3 品、および、体験アクティビティ商品を完成。予定通り、ブランディング講座を行なって、ブランドづくりをすすめている。テストマーケティングはクラウドファンディングなどを学びながら、今後行う準備をしている。	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ 変更なし　☐ 短期アウトカムの内容　☐ 短期アウトカムの表現　☐ 短期アウトカムの指標　☐ 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
予定通り対面でのヒアリングや集まりが実施できず、予定を延期、人数制限をするなど、コロナ警戒レベルの波に対応した。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

上田ケーブルテレビジョンにて講座が取材された

2.広報制作物等

講座の告知を広報うえだ、公民館だより　に掲載　　YouTube チャンネルを開設し動画を公開

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	ヒアリング調査、中間評価報告書作成	古田睦美	事務局朝
内部	資金計画点検	下里俊行	監事
外部	参加者ワークショップによる変化の分析	澤田慎一	アメノウズメ
外部	評価計画&評価報告書作成指導	高橋潤	公益財団法人長野県みらい基金理事長 甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム プログラム・オフィサー

A）事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1）アグロフォレストリーのフィールド＆拠点が整備され、継続的に里山暮らしの文化が伝承される状態になる。	交渉や講座、イベント、商品づくりが継続的に行われている	運営会議月に 1 回、講座・イベント月 2 回、商品づくり 10 アイテム	2023 年 3 月	**法人設立まではさらに多かったが、7 月の法人設立以降は毎月理事および事務局があつまる理事会と、運営会議を行なっている。とくに運営会議を同日行い、若い世代や移住者などが提案をしたり、意見をもちよれるように工夫している。** **移住してきて米作りをしたい若い世帯のニーズからできたはじめてたんぼづくり、はじめてのチェーンソー講座と放置林の整備、地域の産物を使ったスイーツ講座など、若い移住者の**

				意見でとりくみの内容を豊富化しながら、休耕地、荒廃地、放置林などの手入れを進め、地元の方から技術を伝承しながらフィールドが整備されている。
2) 当会を中心に移住者・若者・二地域居住者、住民有志などからなるアソシエーションができ、里山暮らしを楽しみながら伝承し、豊かな地域づくりができるようになる。	二地域居住者・移住者・住民有志等がそれぞれが増加する(定量) 豊かな地域づくりを実感する(定性)	増加数 ヒアリングによる定性データ	2023 年 5 月	・二地域居住者のリスト化ができ、連絡が密になった。 ・移住者は 1 世帯が野倉に移住し、二世帯が移住のための住宅を探しており、昨年ワークショップに参加した 3 名が移住を検討している。 ・住民有志(T.K.T.N.N.T.Y.H.I さん)、学生(実数 40 名、のべ人数 300 名超)は参加者の数がますます増加している。 以前は出会うことがなかった以上の社会層が、ワークショップや講座を通じて、里山の今後や活用について、話すことができるようになってきた。 ・また、IT のコミュニティである、お醤油仲間のメッセンジャーグループ登録者は 33 名、マコモファンクラブのメンバーは 60 名、当プロジェクトの Facebook メンバーは 100 名を超えている。 ・近隣地区の市民有志も参加しアート、薪づくりや薪を使ったサウナなどの里山イベントを企画し、以上の多様な参加者のつどいを実施し、里山資源の活用をすすめるための交流をしていく予定。 ・また、活動するなかから、当回のワークショップに参加して移住を希望し、滞在しながら移住先を探すことを希望する者が多く、移住先を探すための一時滞在場所が必要であるということを認識したため、エリア内に移住のための滞在場所を確保するよう計画を付け加えた。

3)当会を結節点として、里山を活用するための、土地所有者、関係団体、地域団体、などからなるコンソーシアムが形成され、持続可能な地域づくりがすすんでいる状態になる。	コンソーシアムができる コンソーシアム構成員（目標：森林組合・林業士会・ののくら・自治会・遊び心研究所キャンプ・新井木材・塩田の里交流館とっこ館運営委員会・うえだ農と食の会）	コンソーシアムができる コンソーシアム構成員（目標：森林組合・林業士会・ののくら・自治会・遊び心研究所キャンプ・新井木材・塩田の里交流館とっこ館運営委員会・うえだ農と食の会）	2022 年 9 月	・森林組合のヒアリング実施。 ・林業士、上田市担当課とは勉強会、視察も同行する予定。 ・自治会長とは連携して二地域居住者のリストや、勉強会を実施。 ・地域の薪販売者、および唯一の伐採企業、A 木材のヒアリング実施。A 木材はチェーンソー講座の講師や薪クラブで連携予定。 ・とっこ館の事業として、本プロジェクトが企画運営する、地域の産物を使ってスイーツ商品化講座を実施、地域の村おこしの素材であるスグリのスイーツを商品化し、祭りに出店し、人材育成の成果も上げた。今後も連携していく予定。 ・うえだ農と食の会、営農組合とも連携し、有機農業やエゴマ栽培をすすめる調整を開始した。 まだ二年目であり協議体まではできていないが、以上のように、当プロジェクトが結節点となって、持続可能な里山の農林複合経営の環境を整え、次世代の若者や移住者が里山で定住し、能力を発揮しながら、地域を活性化していくため既存の諸団体のコンソーシアム化へむかって、一歩づつすすんでおり、当初の計画よりは一部先んじてすすんでいる。

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある ☑ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	アグロフォレストリーのフィールドのための地域の土地所有者との話は良好にすすみ、当初の計画をはるかに超える面積を借りることができた。また、1 年目に整備した機械などの利用も進み、予想よりも整備がすすんでいる。拠点については、DIY のための貯木や土地所有者との信頼関係づくりに時間をかけており予定より時間がかかっているが、より広範な協力者も集まってきて、着実に準備を進めている。フィールド整備や講座などは計画より回数が倍以上の実績となっており、会員制度を整えて継続的に実施していく体制づくりにむかって着実に進んでいる。商品づくりも、予定通りすすんでおり、とくに里山アクティビティの商品化の準備については、マコモ茶づくり、マコモ和紙作り、わらびの収穫と保存方法、きのこづくり、薪づくり、山菜取り、森のアロマづくりなど、来年度より、一般市民や親子参加者を試験的に募集できる状態に至っている。 ・本プロジェクトを結節点として、荒廃地を所有している地域住民、地域の森や休耕地を活用したい移住者、若い世代、二地域

	居住者などが里山を美しく保全して活用するという共通の目的のために、地縁ではない、個人の意志によるつながり、つまり、新たなアソシエーションを形成し、それぞれのニーズを満たしつつ、移住者と地元民が、一緒に地域を作ることができることをめざしているが、イベントや講座を通じて参加者は当初の目的 300 名をダブルスコア的に超えて増加している。参加者の中でも、上記の目的を理解し、強い意志を持って参加するコアメンバーが新たに拡大し、先日のアグロフォレストリー講座「木の駅を拠点とする里山地域の活性化」には、当会のメンバーのほか、上手自治会長、地元の森林所有者、野倉住民、ののくら、パパカレッジ、移住促進住宅オーナーの他、あらたに趣旨に賛同した市民 4 名、学生 3 名が参加し、今後の展開が期待できる。

B）事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	・アグロフォレストリーのフィールドの取得状況拠点整備のための設計・施工の進展	拠点建設について少し遅れているが着実にすすんでいる。	・アグロフォレストリーのフィールドは、2021 年にマコモ田 15a、わらび田 5a、エゴマその他 25a で計 45a を借り、22 年にはさらに 37a を借りることができ、当初の計画の 30a を超えて整備が進められている。 ・拠点については、地域の土地所有者との信頼関係構築と木材の確保と乾燥のため計画より時間を要しているが、着実に設計の準備が進んでいる。
	アグロフォレストリーについての知識の共有	メンバー、若い世代においては共有がせ進んだ。 地域住民、高齢者に対しては、認識はすすんでいない。活動の成果を上げていくことが重要。	・毎月の運営会議やワークショップ、講座を通じて、里山の持続可能な暮らしの価値やアグロフォレストリーについての知識の共有について、メンバー内での知識の共有はできた。次世代や地域住民については、講座や上映会参加者のアンケートからみると、移住者、若い世代を中心におおむね認識されてきたといえる。年齢の高い地元の古参の住民については、1 年目のヒアリング調査でこの「地域の良いところ」をきいてもとくに回答がなかったことからもわかるように、里山の価値は低いと考えている状況があり、最近の講座の感想からも、言葉で説明をしてもあまり認識が変わっていないことがうかがえる。言葉ではなく、若い人々が里山の価値を認識し集まってきて地域が活性化する様子を示していく必要があり、結果が出るまでには時間がかかると思われる。

	里山の叡智伝承講座を実施することで、里山暮らしの知恵や技、また楽しさの伝承状況	世代や地元か移住者かによって傾向が異なるが目標は達成されている	・移住者や若い世代の里山での経験のなかった参加者のアンケートにみられる回答は、里山の豊かさを知れた、体験できて楽しかった、里山が身近になった、買わなくても作れることがわかった、わらびの手入れや保存など技術的なことがわかった、など、体験ワークショップの目的が達成されている。 ・地域住民で里山体験ワークショップに参加する人は、お醤油、蕨、エゴマなどの実際の産物を分ける活動への参加者が増加しており、生産物獲得に興味があり、物質を通しておいしさや豊かさや活動の意義を感じていると思われる。
	利用・公開可能な記録動画の作成状況	計画通り	記録動画については、1 年目は画像を撮りためていたが、2 年目からはユーチューブにチャンネルを開設し、定期的に活動がアップされる体制を作ることができ、すでに 6 本が公開されている。
	地域の二地域居住者・空き家・不在地主の関係リストの作成の進捗状況	計画通り	二地域居住者のリストは自治会と連携しながら作成した。(個人情報のため資料の提出はしない) 空きや地図は、自治会が作成したものをベースに追加調査と加筆を行い空き家地図を完成した。
	里山活用イベントの実施状況とその評価	予定通り進み、内容は広がっている	・1 年目の里山活用イベントは予定通り実施され 30 名以上が参加した。昨年からの、はじめてのチェーンソー講座、薪割り機を使ってみようワークショップなどを通じて、里山を整備しながら、薪をつくることができるようになった。本年度は、継続的に里山整備と薪づくりができるよう、薪クラブ活動の開始を予定しているが、イベントとしては、作った薪を使って里山でテントサウナイベントを行いたいという提案があり、11 月に実施。若者のアイデアで新しいタイプの森林資源を活用したイベントを企画することができた。これによって、普段顔を合わせない参加者や社会層の交流ができた

実施をとおした活動の改善、知見の共有			
組織基盤強化・環境整備			

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

・里山交流館とっこ館では、調理室を改造してスイーツ商品(焼き菓子・パン)の商品作成ができるようにしたにもかかわらず、利用者が全くおらず、人材育成の必要性のニーズがあることがヒアリングで明らかになった。本プロジェクトは、地域の産物を使いこなし、商品化できる人材を育成しようとしており、講師やプログラムの準備をおこなってきたため、ニーズが合致し、連携して企画を実施することになった。

・10 月のとっこ館祭りにおいて、講座受講生の有志の会ができ、講座の成果として、地元の素材を使ったスイーツ商品 3 つを出展することができた。とくに地域おこしの素材として栽培されているすぐりを使用した焼き菓子が地域の活性化に寄与した面でも好評だった。今後森の恵みの加工施設を立ち上げたり、イベントで地域の産物の商品を出店できる人材が複数できた。

・上小地域の林業士協会や森林組合では、上小地域エリアに複数の木の駅を作るためにぎやかな森プロジェクトというとりくみの調査研究を開始したところで、本プロジェクトの目的である森林資源の活用と移住者若者の人材育成のための拠点施設づくりと目的が合致し、連携して勉強会や視察を行うことができるようになった。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

・里山暮らしを伝承しながら森林資源の活用ができる人材を育成し、若者・移住者・次世代住民が活動できる拠点づくりをめざしていたが、具体的に「木の駅」のような機能を持った拠点のビジョンができ、関係者の中でイメージが共有されるようになってきた。大枠でのアウトカムの方向は変わらないが、イメージが具体的になり、また、長期的なアウトカムとして、キャンプ場やカフェをそなえた木の駅のような拠点が想定されるようになった。

・参加者の中に、県外からの移住を具体的に考え、家探しをしたい人や、ためしに一定期間お試し移住をして見たい人が相当数いることがわかった。また、参加者が知人を口コミで誘い、多数の県外の関係人口が潜在的に存在することがわかった。移住者による地域づ

くりや、今後の体験アクティビティへの参加者の確保、また、どういう人か分かってから双方納得して移住してきてほしいといった地域住民のニーズにも、おためし移住スペースの運営が必要だということがわかった。このため、大枠は変わらないが、資金計画の家賃を一部増額して、移住を考える参加者が複数日滞在できる場所を確保することになった。それにより、県外の参加者や移住者がより深く地域を理解して地域活性化を促進する人材が集まることが期待される。

④　事業計画の改善の必要性の確認

- ☑ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- ☑ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- ☑ 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために ☐ 事業計画は適切に改善されたといえる ☑ 事業計画を適切に改善する見込みがある ☐ 事業計画の改善について、課題が残っている と自己評価する	

⑤　中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

・長期的なアウトカムとして多機能の新しい「木の駅」のような拠点を構想するため、関係者とともに視察や勉強会を行い、貯木場と、里山整備と里山くらしの継承を意図した、薪クラブの活動を実施する。その革新的なメンバーを中心に里山のつどいを行い、活動に対する、地域の認知度向上と理解促進をおこなう。
・移住促進スペースのレンタルを開始する。

添付資料　　活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、３～4 枚程度）